

第4学年

～中心となる語や文を見付けて要約し、
調べたことを伝えよう～

「世界にほこる和紙」





↑
ワークシート

第4学年国語科学習指導案

1組	児童数34名	授業者	伊藤 美幸	6／8
2組	児童数34名	授業者	小屋 友樹	4／8
3組	児童数34名	授業者	桂 知琴	7／8
4組	児童数33名	授業者	小野寺 晃	3／8

- 1 単元名 中心となる語や文を見付けて要約し、調べたことを伝えよう
教材名 「世界にほこる和紙」(光村図書 4年下)

2 単元目標

◎資料から必要な事柄を選び、目的を意識して要約することができる。

- ・繰り返し使われている言葉や接続する語句などの役割を理解して、必要な語句を書き留めることができる。 [知識及び技能(2)イ]
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。 [思考力、判断力、表現力等 ウ]
- ・中心となる語や文を見付けて要約し、人物の業績を伝えようとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 単元評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・繰り返し使われている言葉や接続する語句などの役割を理解して、必要な語句を書き留めている。	・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。	・中心となる語や文を見付けて要約し、人物の業績を伝えようとしている。

4 単元について

(1) これまでの学習経験

1学期には「思いやりのデザイン」を通して、筆者の考えとそれを支える事例との関係を読み取った。筆者の考えがより伝わるように表現する方法として、対比があることを知り、対比を使った表現方法のよさについて学んだ。「アップとルーズで伝える」では、対比関係にある文章から筆者の考えとそれを支える事例を見付けて読み取ると同時に、伝えたい情報の全体や焦点化した部分を選んだり組み合わせたりすることのよさを学習した。その後に言語活動として、日常生活の中にある資料を使い、全体と部分を見付ける活動を行った。また、他教科で新聞やパンフレットにまとめる際にも全体と部分を意識して書くように取り組んできた。本教材で要約について学ぶときも、筆者の意図を変えず、簡潔にまとめたものが要約であり、それが全体であると捉えた。今後も全体と部分を選んだり組み合わせたりしてまとめていくことを意識付けたい。

(2) 本教材について

「世界にはこる和紙」は、多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしいという筆者の思いが、双括型で述べられた文章である。

本教材は「初め」「中」「終わり」の構成で書かれている。「初め」には筆者の和紙に対する思いが述べられ、それは「終わり」でも表現を変えて繰り返されている。「中」は、和紙の「破れにくく長持ちする」という特長と、気持ちを伝える方法の一つとして和紙が使われてきたということが、複数の事例を挙げながら詳しく述べられている。洋紙と比較しながら述べていることや、複数の事例を挙げて説明していることのよさを、児童が実感しながら読み進めていくことができる教材である。

本単元では言語活動として、社会科の副読本に取り上げられている東京都の発展に尽くした人について、友達に紹介する活動を取り入れた。資料から必要な事柄を見付けて整理し、要約をする。自分が選んだ人物の業績について要点を絞って伝えるために、習得・活用で身に付けた力を生かそうという目的をもって学習に取り組むことが期待できる。

5 研究主題に迫るための手だて（ユニバーサルデザインを意識した指導の工夫）

(1) 授業の流れを示す掲示物（視覚化）

単元計画や、1 単位時間の授業の流れを提示することにより、児童が見通しをもって学習に取り組むことができると考えた。児童自身が、学習活動を理解し、主体的に学習できるようにした。

(2) 言語活動（焦点化）

第三次では、社会科の副読本に取り上げられている東京都の発展に尽くした人について、友達に紹介する。分かりやすく伝えるためには、資料から必要な事柄を選び出し、要約して伝えることが有効であると気付かせる。

(3) 習得・活用を意識した学習計画（焦点化）

第一次では、実際に和紙に触れ、気付いたことや考えたことを出し合い、学習への動機付けをする。第二次では、教材文を読み、筆者が伝えたいことの中となる語や文を見付け、要約の仕方を習得する。第三次では、単元の学びの応用として、東京都の発展に尽くした人の資料を使い、要約して交流する。

(4) うさ松の秘伝書の活用（焦点化）

本単元では、中心文、要点、要約などについて学習する際、うさ松の秘伝書を積極的に活用させることで、うさ松の秘伝書の使い方を身に付けられるようにした。また、学習したことをまとめた教室掲示物に、うさ松の秘伝書の番号と項目を表示して、学習の手掛かりとした。

(5) ICTの活用と個の学びが生かされる交流活動の工夫（共有化）

シェアタイムで交流をする際に、自分の考えを整理したノートや要約した文章をロイロノートで共有する。共有したものを読み合うことで、考えが伝わりそれぞれの視点が広がったり深まったりする助けとなるようにした。自分の考えをまとめたノートや、要約した文章を交流することで、自分が書いた文章を見直すことのできる力を養えるようにした。

6 学び方（「うさ松の秘伝書」の項目番号）

言語形式 様々な説明的な文章に活用できる読み方	言語内容 該当教材における特有の読み方
<p>要約する。(⑪)</p> <p>1. 文末表現に着目して、筆者の考えを見付ける。(③③)</p> <p>2. 繰り返し使われている言葉に着目する。(⑧⑨)</p> <p>3. 接続する語句に着目し、筆者の考えや対比関係を読み取る。(③⑩)</p> <p>4. 書き留めた語や文を分類・整理し、要点をまとめる。(⑩)</p>	<p>1. 文末表現に着目して、筆者の考えを見付ける。 「～と考えています。」「～なのです。」</p> <p>2. 繰り返し使われている言葉に着目する。 「せんいの長さ」「やぶれにくい」 「気持ちを表す方法」「選んで使う」</p> <p>3. 接続する語句に着目する。 「接続する語句」(筆者の考え) まず・なぜなら・もう一つ・このように 「接続する語句」(対比関係) 一方・しかし・けれども 「対比関係」 和紙と洋紙・ヨーロッパの国々と日本・平安時代と現在</p> <p>4. 書き留めた語や文を分類・整理する。 ・共通する特徴を見付ける。 「紙のやぶれにくさは、せんいの長さのちがいが関係しています。」「和紙はとても長いせんいでできています。」「和紙を作るときには、洋紙ほど高い温度にすることはなく」「よりおだやかなかんきょうで作られている和紙」 ・具体例を省く。 正倉院には～・世界の博物館や～・短歌を書くときには～・自分のことをしょうかいするめいしを～・孫にお年玉をあげるときにも</p>

7 学習指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	○指導内容	◇支援 ★評価
一 学習の見通しをもつ	1	<div>学習の課題を見付けよう。</div> <div>○文章のまとめ方について振り返る。 ○東京都の発展に尽くした人を紹介することを知り、学習の見通しをもつ。</div> <div>○過去の学習物から、学習課題を捉えること。</div> <div>◇1学期に作成した新聞やリーフレットを提示し、伝えたいことを分かりやすくまとめる難しさを思い出せるようにする。</div>		
	2	<div>どんなことを伝えようとしている文か考えよう。</div> <div>○和紙に触れ、考えたことを話し合う。 ○筆者が伝えようとしていることについて考える。</div> <div>○和紙を触って気付いたことや考えたことを出し合うこと。 ○和紙を触った感想や生活経験と、筆者の考えを対比させること。</div> <div>◇生活経験や理科の観察ポイントを参考にして、見付けることができるようにする。 ◇文末表現に着目できるようにする。(秘伝書③)</div>		
二 筆者の考えを読み取り、要約する	3	<div><div>本時 四年四組 (習得①)</div><div>○和紙のよさについて読む。 (形式段落③④⑤⑥)</div></div>	<div>○和紙のよさを見付けること。 <div>習得① ・キーワードや中心文を見付けること。 ・要点をまとめること。</div></div>	<div>◇見付けた事柄を整理する方法を選ぶようにする。 ◇つなぎ言葉に着目し、筆者の考えが複数あると気付けるようにする。 ◇繰り返し出てくる言葉に印を付け、視覚的に分かるようにする。 ◇中心文の見付け方を確認する。 (秘伝書⑧⑨) ◇要点の見付け方を確認する。 (秘伝書⑩)</div>

	4	和紙のよさについてまとめよう。		
	<div>本時</div> <div>四年二組（習得②）</div>	<p>○書き出した語句や文を整理し、文章化する。</p> <p>○要約について理解する。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>○和紙のよさを理解すること。</p> <p>○要約について理解すること。</p> <div>習得② 要点を使って要約すること。</div> <p>○学習を振り返ること。</p>	<p>◇要点をまとめるポイントを掲示し、確認できるようにする。 (秘伝書⑧⑨⑩)</p> <p>◇文章のどこに着目したかによって、選んだ語句や表現に違いがあることに気付けるようにする。</p> <p>◇要約のポイントを確認する。 (秘伝書⑪)</p> <p>★繰り返し使われている言葉や接続する語句などの役割を理解して、必要な語句を書き留めている。</p> <p>★目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。</p>
	5 (活用)	筆者のもう一つの考えを要約しよう。		
		<p>○筆者の考えが書かれている所を見付け、要約する。 (形式段落⑦⑧⑨)</p> <p>○和紙に対する筆者の思いについて考える。</p>	<p>○文末表現に着目すること。</p> <p>○問いの文と答えの文を見付けること。</p> <p>○短い文でまとめること。</p> <p>○最初に和紙に触れて感じたことと、筆者の思いを比べて考えること。</p> <div>活用 習得①②を使って活用を図ること。</div>	<p>◇自力で要約できるよう、前時で見付けた要約の手掛かりを掲示しておく。</p>

三 調 べ た こ と を 要 約 し 、 紹 介 文 を 作 る	6	東京都の発展のために、どんなことをしたのかを見付けよう。		
	本時 四年一組（応用①）	<p>○中心となる語や文を見付け、書き出す。</p> <p>○書き出した内容について交流する。</p>	<p>○学習の手掛かりを確認すること。</p> <p>○自分が選んだ方法で、必要な事柄を書き出すこと。</p> <div>応用① 習得①を使って応用を図ること。</div>	<p>◇要点を見付けるポイントを掲示し、確認できるようにする。</p> <p>◇第二次で見付けた要約の手掛かりを参考に要点を見付けていけるよう支援する。</p>
	7	東京都の発展のためにどんなことをしたのか分かるように要約しよう。		
	本時 四年三組（応用②）	<p>○要点を整理して、要約する。</p> <p>○書いたものを友達と読み合う。</p>	<p>○自分が選んだ方法で、必要な事柄を書き留めること。</p> <div>応用② 習得②を使って応用を図ること。</div>	<p>◇要約の仕方を確認する。 (秘伝書①)</p> <p>◇キーワードや中心文が元の文章とずれていないか確認できるようにする。</p>
	8	完成した要約文を交流し、学習の振り返りをしよう。		
		<p>○それぞれの要約文に対する感想を伝え合う。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<p>○自分と友達の着眼点や表現の違いに気付くこと。</p> <p>○学習を振り返ること。</p>	<p>◇自分と友達の要約文の共通点や相違点に着目できるようにする。</p> <p>★中心となる語や文を見付けて要約し、人物の業績を伝えようとしている。</p>

8 本時の指導（3／8時） 4年4組 指導者：小野寺 晃

（1）目標 繰り返し使われている言葉や接続している語句に着目し、和紙のよさを見付ける。

（2）展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまづき	◇支援（全）…全体（個）…個別 ★評価
和紙のよさを見付けよう。		
1. 前時までの学習を振り返り、 本時のめあてを確認する。	○学習を振り返り、めあてを確認すること。	◇掲示物を使い、これまでの学習を振り返るようにする。（全）
2. 和紙のよさについて書かれているところを、微音読を通して確認する。 (形式段落③④⑤⑥)	○形式段落③④⑤⑥を確認すること。 ○和紙のよさがいくつあるかを確認すること。	◇「まず」「もう一つ」のつながり言葉から、筆者の考えは複数あることに気付けるようにする。（全）
3. 和紙のよさについて読む。 マイタイム	○和紙のよさを見付けること。 <div>習得① 要点を見付ける ・キーワードや中心文を見付けること。 ・要点をまとめること。</div>	
	■キーワードや問いの答えになる文を見付けることができない。	◇中心文の見付け方を確認する。（秘伝書⑧⑨）（個） ◇中心文やキーワードを見付けられたかを確認する。（全）
4. グループで交流する。 シェアタイム プラスタイム	○交流の視点を知ること。 ■交流でどんなことを話せばよいか分からない。	◇繰り返し使われている言葉を見付けているか、などの交流の視点を確認する。（個）
5. 全体で交流する。 フォローアップタイム プラスタイム	○足りない言葉や文があれば青で加筆修正すること。	◇中心文やキーワードを見付けられたことを価値付ける。（全） ◇友達の意見を聞いて加筆修正していることを価値付ける。（全）
6. 要点について理解する。	○本時で取り組んだことが要点になると理解すること。	◇要点の意味や見付け方を秘伝書で確認する。（秘伝書⑩）（全）
7. 次時の学習を確認する。		

8 本時の指導（4／8時） 4年2組 指導者：小屋 友樹

（1）目標 和紙のよさについて、中心となる語や文を使ってまとめる。

（2）展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援（全）…全体（個）…個別 ★評価
和紙のよさについてまとめよう。		
1. 前時までの学習を振り返り、 本時のめあてを確認する。 2. 書き出した語や文を整理し、 文章化する。 マイタイム	○学習を振り返り、めあてを 確認すること。 ○キーワードが入っている か確認すること。 習得② 要点を使って要約する ・前時でまとめた要点を使い、短 い文にまとめること。 ・つなぎ言葉を使うこと。	◇掲示物を使い、これまでの学習 を振り返るようにする。（全） ◇要点をまとめるポイントを掲 示し、確認できるようにする。 （秘伝書⑧⑨⑩）（全）
3. グループで交流する。 シェアタイム プラスタイム	■どの語や文を使ってまと めればいいのか分からない。 または、文が長くなってし まう。 ○交流の視点をすること。 ■交流で何を話せばいいか わからない。	◇ヒントカードを渡し、要約の条 件に当てはまらない語や文が ある場合は省くようにする。 （個） ★繰り返し使われている言葉や 接続する語句の役割を理解し、 必要な語句を書き留めている。
4. 全体で交流する。 フォローアップタイム プラスタイム	○足りない言葉や文があれば青で加筆修正すること。	◇キーワードを使っているか、具 体例を省いているかなどの交 流の視点を確認する。（全） ◇他の児童の意見を聞いて、自分 が書いた文に加筆修正してい ることを価値付ける。（全） ◇文章のどこに着目したかによ って、選んだ語や表現に違いが あることに気付けるようにす る。（全） ★目的を意識して、中心となる語 や文を使いまとめている。
5. 要約について理解する。	○本時の取り組みが要約に なると理解すること。	◇要約のポイントを秘伝書で確 認する。（秘伝書⑪）（全）
6. 本時の振り返りをして、次時 の学習を確認する。	○本時の振り返りをし、次時 の学習を確認すること。	

8 本時の指導（6／8時） 4年1組 指導者：伊藤 美幸

（1）目標 資料から中心となる語や文を見付ける。

（2）展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援（全）…全体（個）…個別 ★評価
東京都の発展のために、どんなことをしたのかを見付けよう。		
1. 前時までの学習を振り返り、 本時のめあてを確認する。	○学習を振り返り、めあてを 確認すること。	◇掲示物を使い、これまでの学習 を振り返るようにする。（全）
2. 資料を読み、中心となる語や 文を見付けて書き出す。	○学習の手掛かりと学習の 進め方を確認すること。 ○自分で選んだ方法で書き 出すこと。	◇学習の手掛かりと学習の進め方 を掲示し、確認できるようにす る。（全）
マイタイム	応用① 要点を見付ける 習得①を活用し、中心文やキーワ ードを見付けること。	◇要点の見付け方を確認する。 （秘伝書⑩）（個）
	■中心となる語や文を見付 けることができない。	◇繰り返し出てくる言葉や文に印 を付けさせることで、視覚的に 分かるようにする。（個）
3. グループで交流する。	○同じ人物を選んだ児童で 話し合うこと。	◇つなぎ言葉に着目したり、めあ てに対する答えの文を見付けた りすることをヒントカードで示 す。（個）
シェアタイム	○交流の視点を知ること。	◇資料に繰り返し出てきた語句や 文が入っているか確認する。 （個）
プラスタイム	■交流で何を話していいか 分からない。	◇功績や人物像に着目したという 発言を価値付ける。（全）
4. 全体で交流する。	○文章の中のどのような語 や言葉に注目したのか話 し合うこと。	◇他の児童の意見を聞いて、自分 のメモに加筆修正していること を価値付けする。（全）
フォローアップタイム	○足りない言葉や文があれば青で加筆修正すること。	
プラスタイム		
5. 次時の学習を確認する。		

8 本時の指導（7／8時） 4年3組 指導者：桂 知琴

（1）目標 東京都の発展のためにどんなことをしたのか分かるように要約する。

（2）展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援（全）…全体（個）…個別 ★評価
東京都の発展のためにどんなことをしたのか分かるように要約しよう。		
1. 前時までの学習を振り返り、 本時のめあてを確認する。	○学習を振り返り、めあてを確認すること。	◇前時のノートを使い、学習を振り返るようにする。（全）
2. 要点を整理して、要約する。 マイタイム	○サイドラインや付箋、思考ツールを使用し、知らせたい内容を整理すること。 <div>応用② 要点を使って要約する ・習得②を活用し、短い文にまとめること。 ・つなぎ言葉を使うこと。</div> ■知らせたい内容を整理できない。 ■文をまとめることができない。	◇要約の仕方を確認する。 （秘伝書⑩）（全） ◇ヒントカードを渡し、前時にまとめた要点を確認できるようにする。（個） ◇ヒントカードを渡し、繰り返しの言葉や具体例がある場合は除くようにする。（個）
3. ペアで交流する。 シェアタイム プラスタイム	○交流の視点を確認すること。 ■交流で何を見付け、何を話したらよいか分からない。	◇キーワードや中心文が元の文章とずれていないか、具体例を省いているかなど交流の視点を確認する。（全） ◇ヒントカードを渡し、自分が大切だと選んだキーワードや中心文が入っているかを確認できるようにする。（個）
4. 全体で交流する。 フォローアップタイム プラスタイム	○自分と友達の考えを比較し、自分の考えを補足する語や文があれば加筆修正すること。	◇自分と友達の考えを比較し、要約の意図を伝えていたり、自分の考えを加筆修正できたりしたことを価値付けする。（全）
5. 次時の学習を確認する。		

